

桜谷古墳群調査概報

—平成7年度、下水管敷設工事、太田2号汚水技線第1号工事にかかる調査—

1996年3月

高岡市教育委員会

例　書

1. 本書は、下水管敷設工事、太田2号污水枝線第1号工事に伴う、桜谷古墳群発掘調査の概要報告書である。
2. 当調査は、高岡市都市整備部下水道建設課の委託を受けて、高岡市教育委員会文化財課が実施した。
3. 調査地区は、高岡市太田丘保地内である。
4. 調査関係者は、次のとおりである。

文化財課長：田村晴彦
〔埋蔵文化財係〕
主幹兼係長：石油正雄
係員：山口辰一
係員：横津明義
係員：荒井　隆
5. 本書における遺構記号は次のとおりである。

S D—溝
S K—土坑
6. 本書の執筆は、荒井が担当した。

調査参加者名簿

発掘

上田工、尾山久美子、垣地慶子、門島信也、新谷晴紀子、杉本広政、旅剛、塚原望
寺井久子、土合良子、中村恭子、広沢隆太郎、水外一郎、山城一夫

整理

東加世子、尾山久美子、垣地慶子、門島信也、新谷晴紀子、高田えみ子、塚原望
寺井久子、土合良子、道谷美奈子、中尾賀要子、中田都子、中林靖子、橋真理子

目 次

例 言
目 次

I 序 説	1
II 遺 構	4
1. 土坑	4
2. 溝	4
III 遺 物	5
土器	5
IV 結 語	6

挿 図 目 次

第1図 遺跡位置図 (1/5万)	1
第2図 調査地区位置図 (1/5,000)	2
第3図 上坑SK01実測図 (1/80)	4
第4図 須恵器実測図 (1/3)	5

図面目次

- 図面1 遺構実測図 調査地区全体図 (1/500)
- 図面2 遺構実測図 北側調査地区北側 (1/200)
- 図面3 遺構実測図 北側調査地区南側 (1/200)
- 図面4 遺構実測図 南側調査地区北端 (1/200)
- 図面5 遺構実測図 南側調査地区中央 (1/200)
- 図面6 遺構実測図 南側調査地区南端 (1/200)

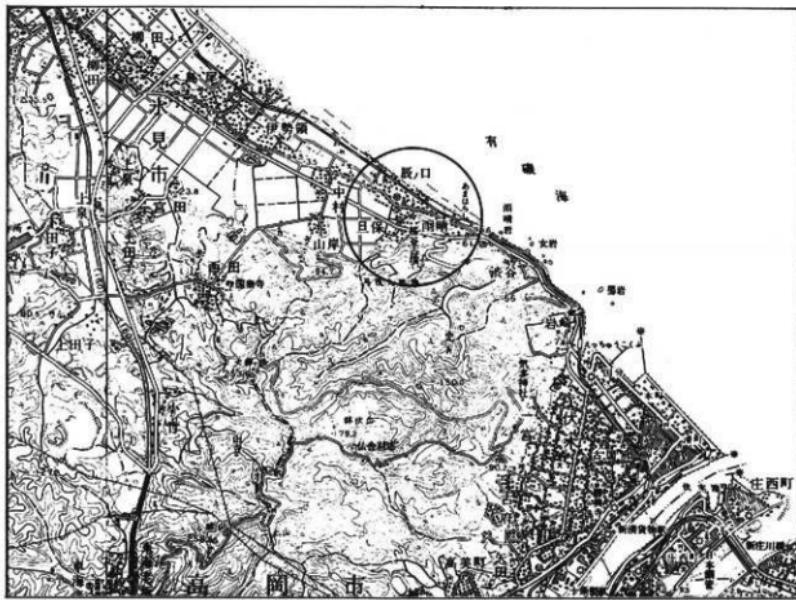
図版目次

- 図版1 遺跡 1. 遺跡全景 (東上空)
2. 遺跡全景 (南上空)
- 図版2 遺跡 1. 遺跡全景 (西上空)
2. 遺跡全景 (南上空)
- 図版3 遺跡 1. 遺跡全景 (北西上空)
2. 南側調査地区 (北上空)
- 図版4 遺構 1. 北側調査地区北端 (北)
2. 北側調査地区北端 (南)
- 図版5 遺構 1. 北側調査地区中央, 清SD01 (北)
2. 北側調査地区中央, 清SD01 (南)
- 図版6 遺構 1. 北側調査地区南端, 清SD02・03 (南)
2. 北側調査地区南端, 清SD02・03 (北)
- 図版7 遺構 1. 北側調査地区南端, 清SD04 (南)
2. 北側調査地区南端, 清SD04 (北)
- 図版8 遺構 1. 南側調査地区北端 (北)
2. 南側調査地区北端 (南)
- 図版9 遺構 1. 南側調査地区中央 (南)
2. 南側調査地区南端 (南)
- 図版10 遺構 1. 土坑SK01確認状態全景 (北東)
2. 土坑SK01確認状態全景 (西)
- 図版11 遺構 1. 土坑SK01一部掘下状態全景 (北東)
2. 土坑SK01一部掘下状態全景 (西)
- 図版12 遺構 1. 土坑SK01完掘状態全景 (北東)
2. 土坑SK01完掘状態全景 (西)

I 序 説

遺跡概観

当「桜谷古墳群」は、高岡市街地の北、JR高岡駅の北北東約9.3kmに位置する。古墳群の北側をJR水見線が走り、富山湾に接している。南側には二上丘陵が控える。この海と山に挟まれた標高18~23mの台地上に当遺跡が立地する。水見平野、富山湾、遠く立山連峰を臨む高台で、高岡市と水見市の境に位置し、この付近は、大師ヶ岳から北方に延びる丘陵山麓の台地が、海に突き出る山際に当たる。この桜谷古墳群と総称する遺跡は、国指定史跡の桜谷1号墳、2号墳を中心に、これに関連する10基以上の小墳墓群を含むものである。中でも9号墳では内行花文鏡・管玉が出土したことで知られている。昭和52年の調査では13号墳と箱式石棺が新たに発見された。また、周囲の丘陵上には、旧石器から縄文時代の遺跡である太田ぶどう園遺跡がある。山麓には、弥生時代から平安時代に営まれた日保遺跡、古墳時代から平安時代では山岸西遺跡や、山岸遺跡が知られる。さらに、当遺跡の東方0.9kmに岩崎古墳群があり、南東1.6kmには整龍鏡や内行花文鏡が出土した郡分山古墳群が位置する。遺跡の範囲は、南北320m、東西200mを計る。



第1図 遺跡位置図 (1/5万)



第2図 調査地区位置図 (1/5,000)

調査に至る経過

平成5年、下水道建設課より、当遺跡内における下水道工事の計画を知った。当遺跡は国指定の史跡であり、さらに県下を代表する大型古墳群であることから、事業主体の市建設部下水道建設課と協議し、工事に先立って調査を実施することになった。また、工事予定地が桜谷古墳群のほぼ中央部に当たるため、試掘調査を省き、ただちに本調査にかかるとした。これらの協議・承諾を得て、平成7年度に本調査を実施することになった。調査地区は桜谷1号墳の東側を南北に走り、国道415号線を越えて9号墳の東側下を通り、丘陵へ上る生活道路内にある。桜谷古墳群の西側を南北に横断する箇所である。調査地区的位置は第2図に示した。この図で黒く塗りつぶした所が調査地区で、網を掛けている所が古墳で、1~13の数字は、古墳の号数を示している。

調査経過

発掘調査は、平成7年5月18日から同年6月28日まで実施した。実働調査日数は17日間である。調査は国道415号線を挟んで、北側、南側の2期に分けて実施した。表1の除去はバックフォーで行い、トラックで場外に搬出した。その後、造構の確認や掘り下げ、記録の作成を行った。調査地区内には、至る所で周囲の家屋につながる水道管や排水路、土管が横断しており、地山の検出ができない箇所もあった。

工事予定地の内、古墳群の範囲内と推定される所、147m²の発掘を実施した。

基本層序

基本層序は、アスファルト舗装の下に砂利による20~30cmの整地層があり、30~60cmの黄褐色砂質土、茶褐色砂質土の盛土層を経て、旧耕作土と思われる黒褐色砂質土の層がある。その下から茶褐色ないし黄褐色砂質上の地山が表れる。今回の調査では遺物包含層は確認できなかった。北側調査地区には、舗装の整地層のすぐ下に灰白色粘質土の地山面も見られる。南側南半分では、1m前後の厚さで道路の盛土層があり、瓦片、ビニール等が混在している。集落内では、盛土層の中に水道管、排水用の土管が埋設され、地山面まで掘り込まれる箇所がある。国道415号線の周辺では舗装道路の整地により地山面が削平されている。調査地区が南北に細長い形態のため、幅が60~100cmしかなく、土層の変化など面的に捉えることができなかった。

検出造構

検出造構は次のとおりである。

土坑1基（SK01）、溝4条（SD01~04）

このほか、ピットを3箇所検出した。調査地区的幅が最大1mで、造構と思われる箇所の全体を確認することはできなかった。今後の調査次第では、坑や溝とした造構も変更される可能性がある。

出土遺物

土器・陶器類：須恵器、青磁器

出土遺物の全ては、盛土層や旧耕作土層から検出されており、造構内からのものはなかった。出土した遺物も極めて少なく、北側調査地区に限定される。

グリッド

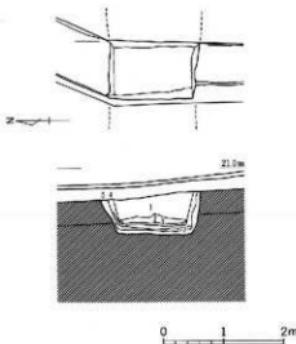
調査地区的グリッドは平面直角座標系の第7座標系（北緯36°00'00"・東経137°10'00"）に合わせた。南北をX軸、東西をY軸とした。X=1、Y=1の地点は、原点より、北へ90.285km、西へ11.805kmの位置である。調査地区が変則的な形状のため、これに沿う形で測量の基準点を設定し、記録を作成した。5m四方のグリッドを使用し、この区画を単位として造構図のメッシュを表示している。

II 遺構

1. 土坑

土坑SK01

調査地区的（5、22・23）区で検出された。確認できた平面形は逆台形を呈し、規模は、長さ1m、上面幅1.68m、下面幅1.24m、深さ70cmを計る。東西方向に遺構が延びると思われるが、調査地区外のため正確な規模、方向は把握できない。灰色砂質土の地山を掘り込み、3～4層の赤褐色、暗褐色の粘土層が互層となってU字状に見られる。埋土の一部に石灰質の極薄い板状のものを認めだが、人骨等の遺物ではなく、その形態等は不明である。遺構上部は道路舗装の際に周囲の地山と共に削平されている。念のため遺構埋土をふるいにかけて精査したが、遺物を確認することはできなかった。覆土は5層に分かれ、上から第1層：暗褐色砂、第2層：暗褐色砂に赤褐色粘質土が混在、第3層：黒褐色粘質土、第4層：赤褐色粘質土、炭化粒含有、第5層：赤褐色粘質土となり、逆台形の堆積を示す。



第3図 土坑SK01実測図（1/80）

2. 溝

調査地区的幅から、確認できた範囲は限定され、正確な形状は不明だが、小ビット以外のものを溝とした。

溝SD01

調査地区的（5・6、38）区で検出された溝である。確認した規模は、長さ0.6m、幅1.35m、深さ19cmを計る。東側は水道管によって切られており、全体の形状は不明である。

溝SD02

調査地区的（5・6、35）区で検出された溝である。確認した規模は、長さ0.9m、幅1.4m、深さ33cmを計る。南側にはSD03がある。東側へ更に延びると思われる。

溝SD03

調査地区的（6、35）区で検出された溝である。確認した規模は、長さ0.6m、幅1.3m、深さ35cmを計る。西側に水道管が埋設されて切られている。北側はSD02がある。

溝SD04

調査地区的（6、32）区で検出された溝である。確認した規模は、長さ0.6m、幅1.65m、深さ25cmを計る。すぐ南側を排水用の土管が設置され、確認できた範囲より幅が拡がっていた可能性がある。

III 遺 物

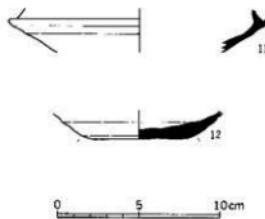
土器

須恵器

古墳時代後期の土器である。第4図に、11・12として2点図示した。杯身の休部、底部である。

11. 杯身の立ち上がり・休部片である。受部はやや上向きに外上方へのびる。

12. 杯身底部である。体部・口縁部は欠損しているため、全体の形態は不明であるが、受部の付く杯身と考えられる。



第4図 須恵器実測図 (1/3)

IV 結 語

当遺跡は大正7年に元済訪社内で発見された9号墳から内行花文鏡、管玉が出土し、その存在が初めて広く知られるようになった。現在、9号墳は出土遺物から5世紀後半から6世紀初頭に比定されている。この発見を契機に、大正8年から大正13年までの間に、学術調査が実施された。この後、古墳群が立地する台地上の開墾が進むに従って、多くの古墳の存在が確認された。

大正10年に、3号墳から金環、ガラス小玉、刀剣、人骨が出土した。6世紀半ばと考えられている。

同12年には2号墳から石劍、紡錘車、管玉が出土した。4世紀末から5世紀初頭に比定される。

大正13年に8号墳が発見され、石室内から提瓶・冠や、刀身・武装・金環・人骨が出土した。現在、須恵器等から6世紀後半に比定されている。

昭和9年に1号墳と、2号墳が、「桜谷古墳」として国の史跡に指定された。

昭和20年に7号墳が発見され、金銅製帶金具、鐵鎌が出土し、5世紀後半から6世紀初頭に比定されている。

昭和33年に三木文雄氏により1号墳、2号墳の測量調査がなされ、墳形の確認、検討がなされた。

昭和40年から41年には、1号墳、2号墳の2基の史跡環境整備事業が行われ、史跡公園として整備、保存されてきた。

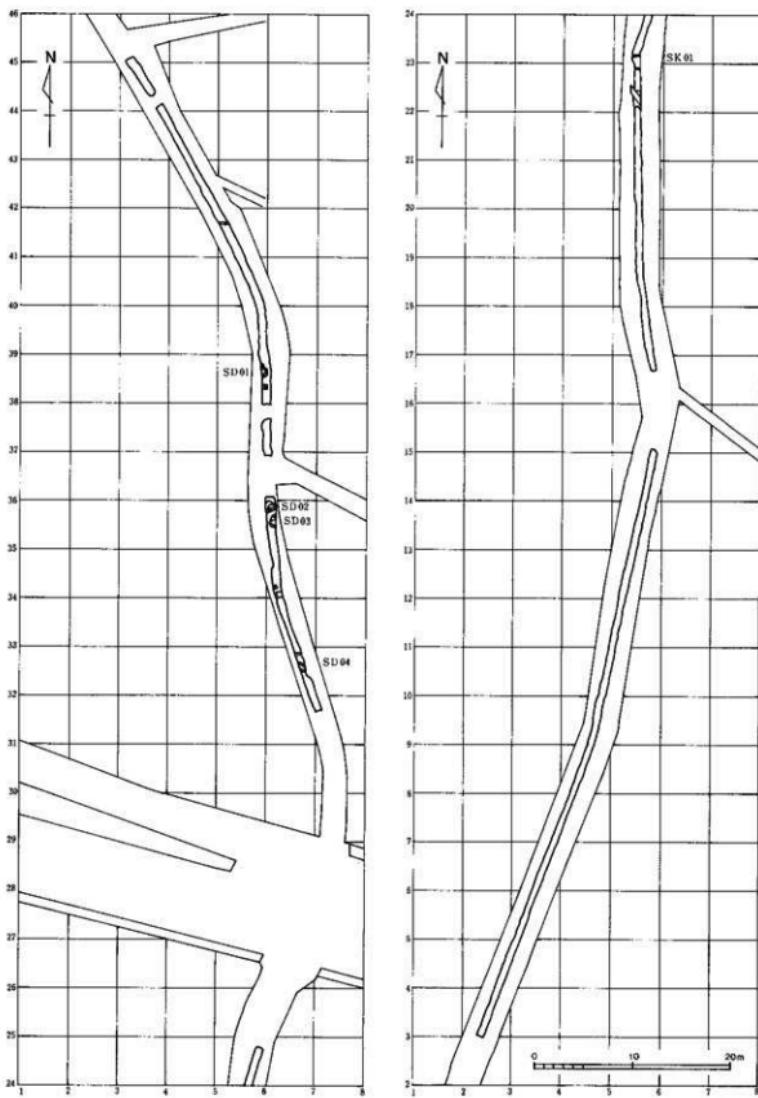
昭和52年の県道バイパス（現国道415号線）工事に伴う調査では、1号墳の周溝と13号墳、箱式石棺2基が新たに発見された。13号墳は金環が出土し、その年代は6世紀末とされる。1号石棺から出土した鉄鉢は5世紀初めから中頃に比定されている。この際、これらを跨ぐ陸橋が設置され、橋脚下に保存措置が行われた。

昭和61年には、高岡市教育委員会によって、西山丘陵の埋蔵文化財分布調査が実施され、高岡西部の丘陵周辺の遺跡の確認の一環として、当遺跡の周辺を含めた現状の再認識と総括がなされた。

今回の調査では、5号墳の南側、13号墳の東側から土坑1基と、1号墳南東側で溝4条が検出された。この土坑は、造構覆土に人為的な工作的痕跡が見られ、墓壙とも考えられるが、出土遺物はなく、その性格を特定できるものがないため、今回は土坑とした。1号墳東側では、道路盛土中に古墳時代後期と思われる須恵器片が出土した。当遺跡内を通る道路は土仮坂と呼ばれ、大正年間以前からその位置を変えておらず、古い時期から道路の造成を含めた地形の改変があったと考えられる。今回確認された遺構は、北側調査地区や南側調査地区北端部に集中するため、遺跡の中心部が台地の北寄りに位置することが考えられる。

四 面

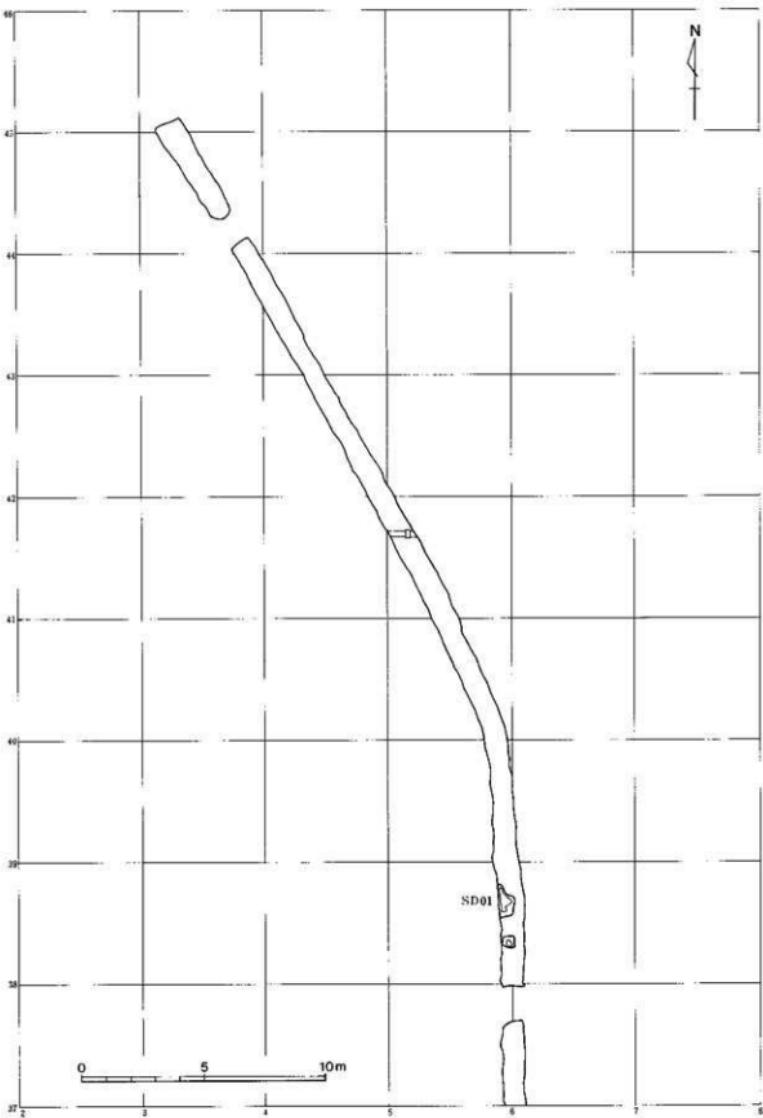
図面一 造橋実測図



調査地区全体図

縮尺1/500

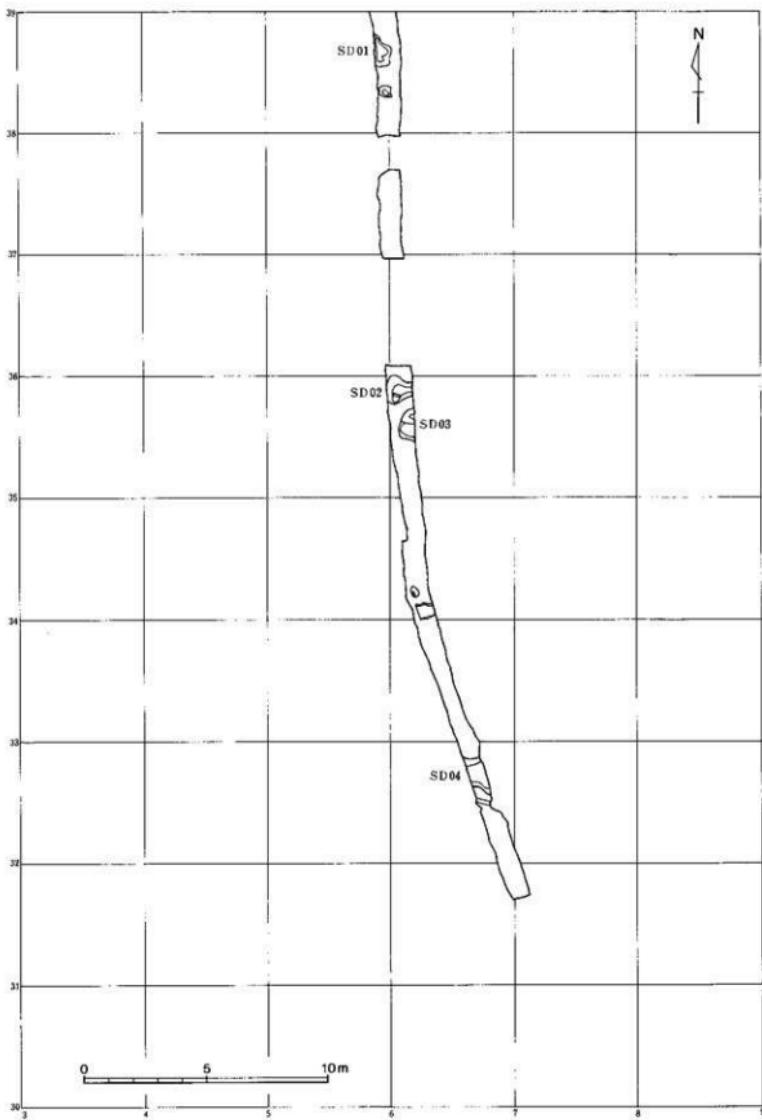
図二 造構実測図



北側調査地区北側

縮尺1/200

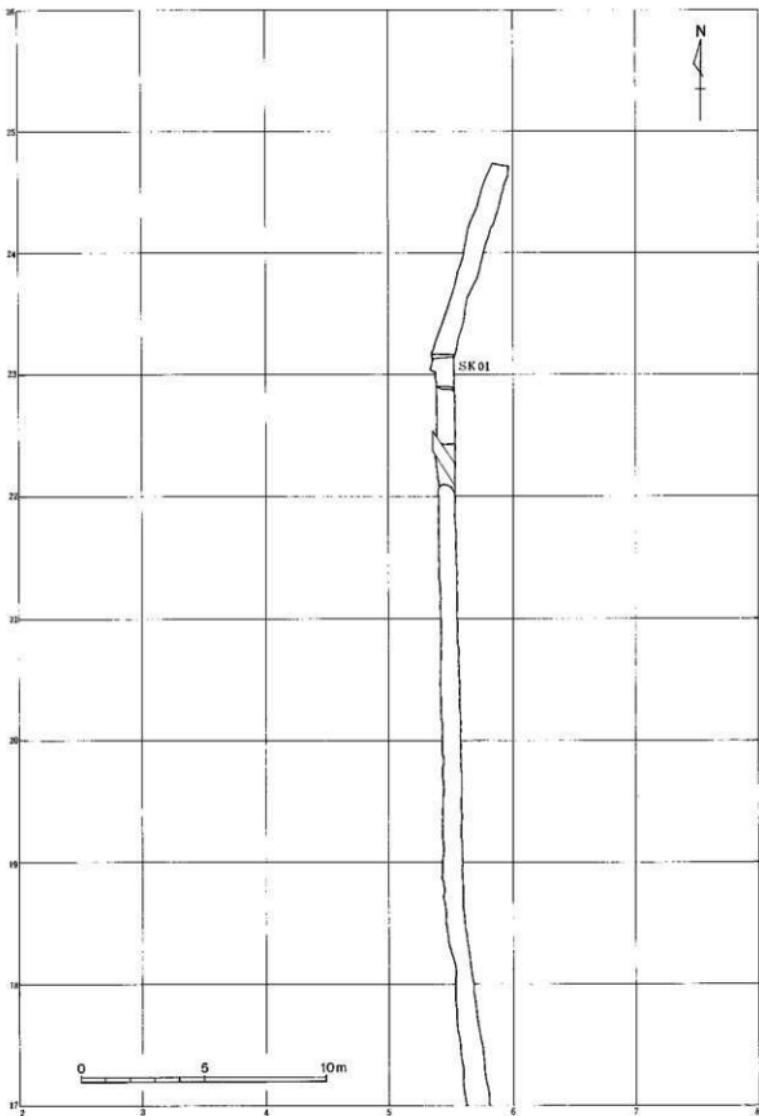
図面三 遺構実測図



北側調査地区南側

縮尺1/200

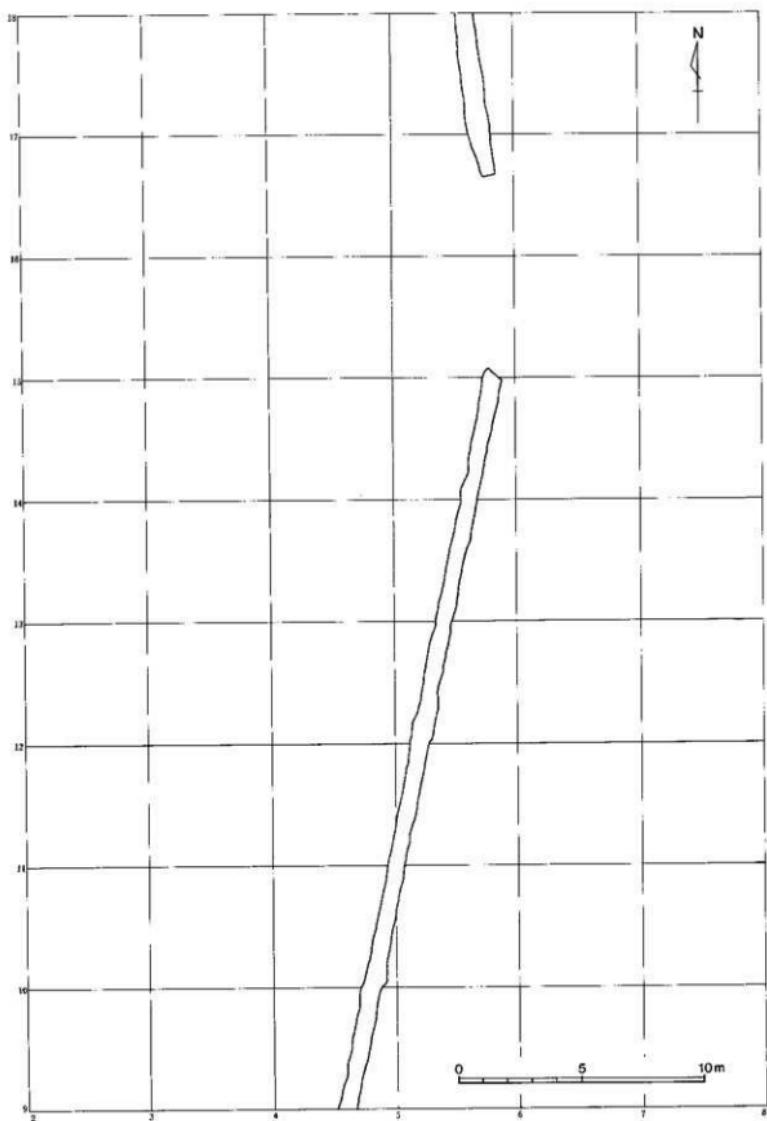
図面四 遺構実測図



南側調査地区北端

縮尺1/200

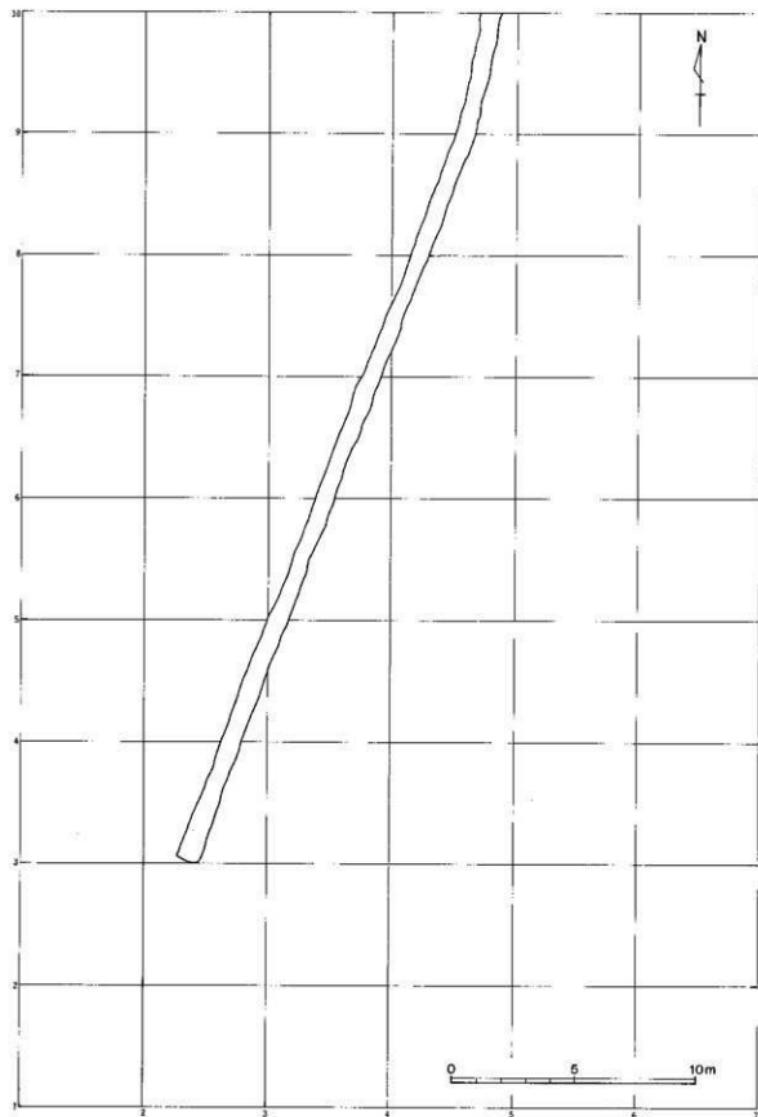
図面五 遺構実測図



南側調査地区中央

縮尺1/200

図面六
遺構実測図



南側調査地区南端

縮尺1/200

図 版



1. 遺跡全景（東上空）



2. 遺跡全景（南上空）



1. 遺跡全景（西上空）



2. 遺跡全景（南上空）



1. 遺跡全景（北西上空）



2. 南側調査地区（北上空）



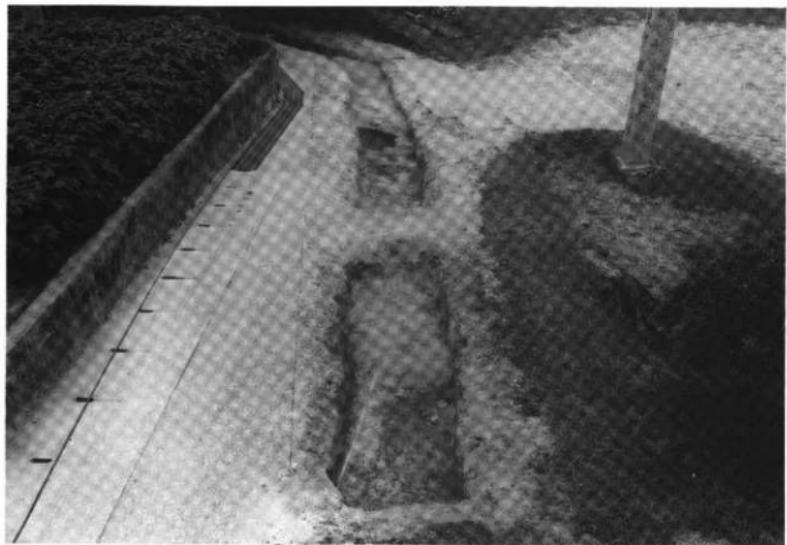
1. 北側調査地区北端（北）



2. 北側調査地区北端（南）



1. 北側調査地区中央、溝S D01（北）



2. 北側調査地区中央、溝S D01（南）

図版六
遺構



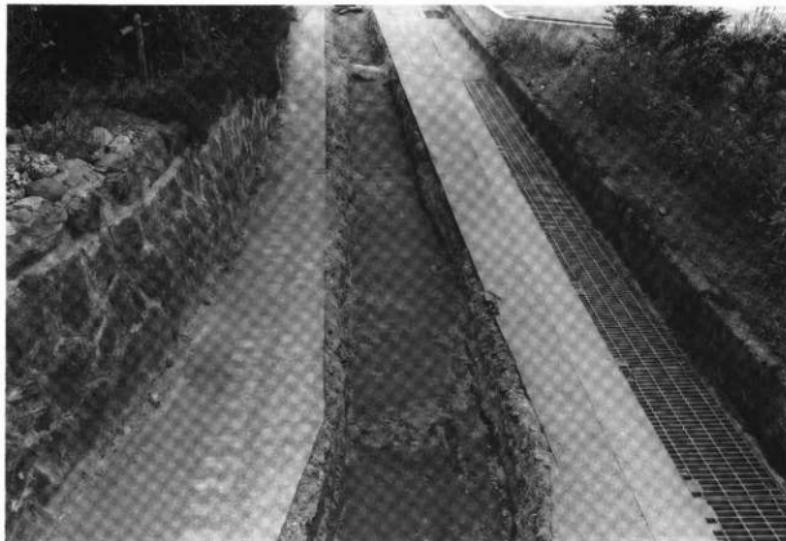
1. 北側調査地区南端、溝 S D02・03（南）



2. 北側調査地区南端、溝 S D02・03（北）



1. 北側調査地区南端、溝SD04(南)



2. 北側調査地区南端、溝SD04(北)



1. 南側調査地区北端（北）



2. 南側調査地区北端（南）



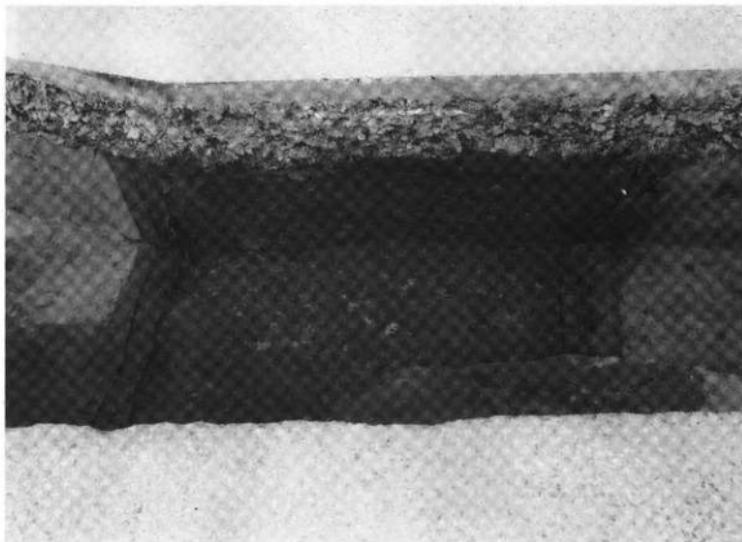
1. 南側調査地区中央（南）



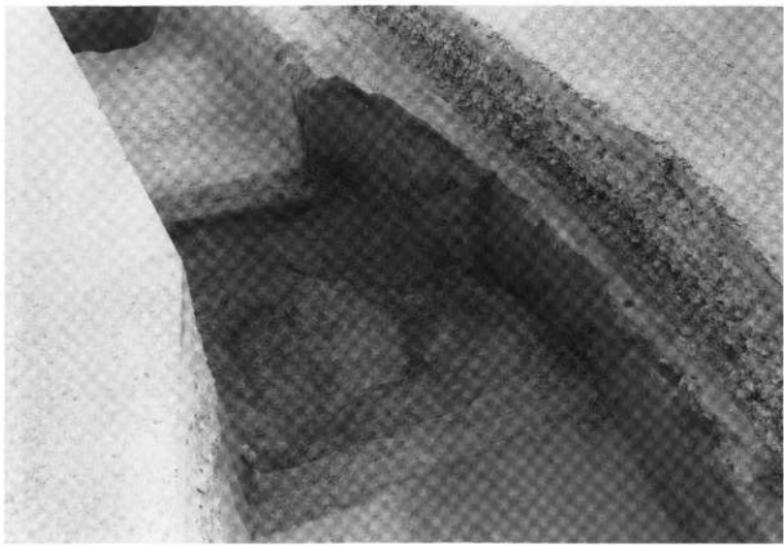
2. 南側調査地区南端（南）



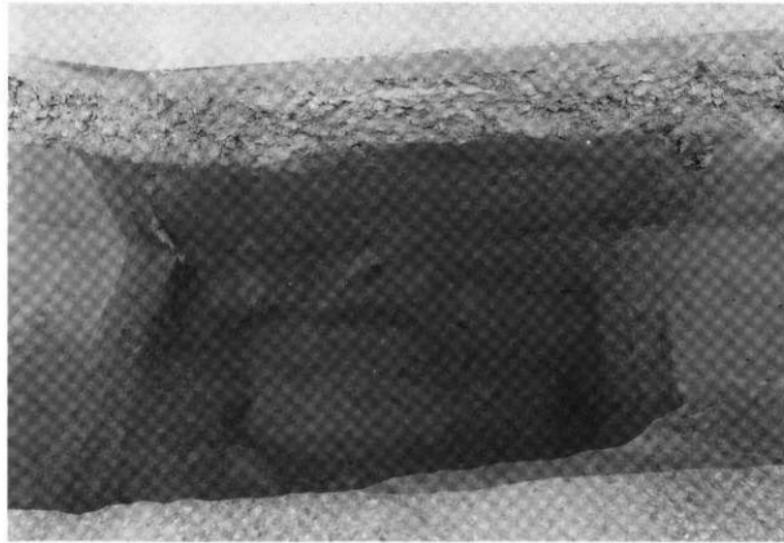
1. 土坑S K01確認狀態全景（北東）



2. 土坑S K01確認狀態全景（西）

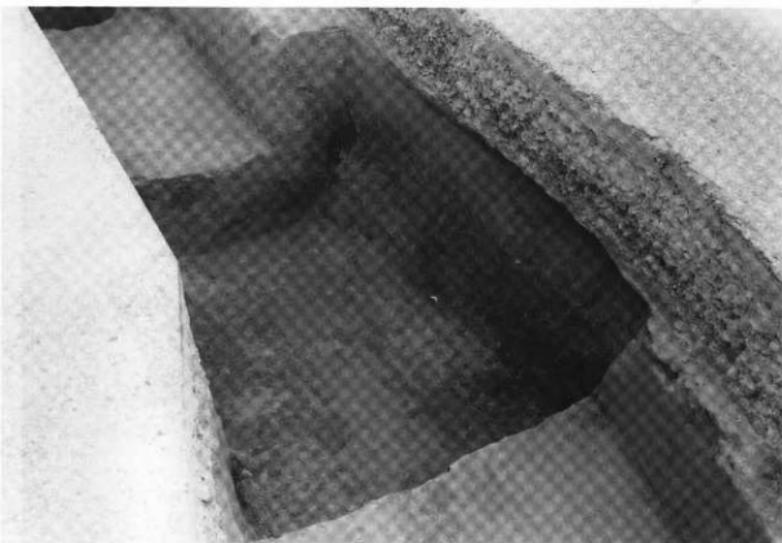


1. 土坑 S K01一部掘下状態全景（北東）

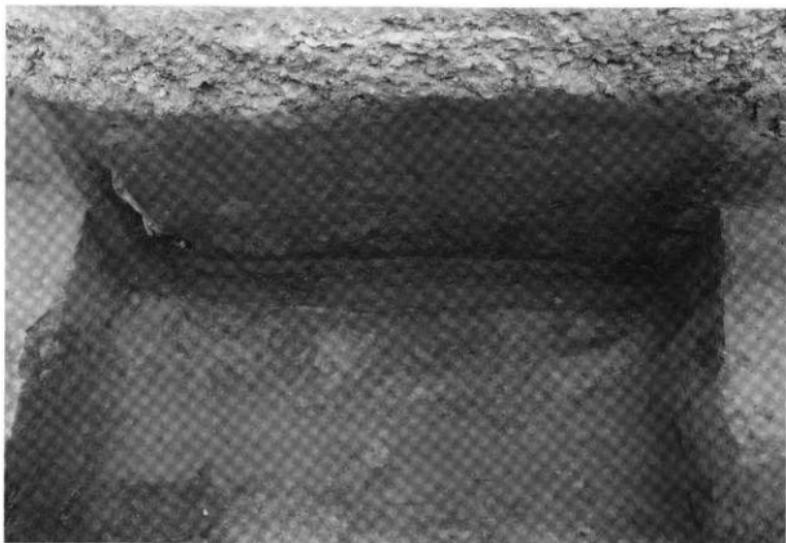


2. 土坑 S K01一部掘下状態全景（西）

圖版一二
遺構



1. 土坑 S K01完掘狀態全景（北東）



2. 土坑 S K01完掘狀態全景（西）

高岡市埋蔵文化財調査概報第33冊

桜谷古墳群調査概報

発行者 高岡市教育委員会

富山県高岡市庄小路7番50号

1996年3月29日

印刷所 平田印刷株式会社

富山県高岡市野村1485番地
